

日本の近代戯曲を読む!

◎日本の近代戯曲研修セミナー

戦前、戦中、戦後の日本演劇で活躍した三好十郎は、関東大震災を契機に詩作をはじめた。プロレタリア演劇、戦時下の演劇、そして戦後と、時代状況と思想に真正面から取り組み、挫折と葛藤の中で生み出された三好戯曲には、激しい批判精神が宿り、人間存在に刻み込まれた記憶と歴史が奔出する。根源的な問い掛けを持つ三好十郎の戯曲を、「読み」そして「語る」二日間。



三好十郎
Juro Miyoshi (1902~1958)

詩人。小説家。劇作家。佐賀市生。両親の愛を知らず母方の祖母に育てられる。12歳の時に母と死別。親戚その他の家を転々とし、労働に従事する日々を送る。飢えと戦いながら早稲田大学英文科を卒業。在学中より詩作を発表、次第にマルキシズムに近づく。プロレタリア詩人として活躍後、劇作に転じ、処女戯曲「首を切るのは誰だ」を発表。「疵だらけのお秋」「炭塵」などプロレタリア戯曲の名篇を書く。1934年「斬られの仙太」、35年「幽霊狂」を書き転向。混乱する内部を1940年「浮標」で克服したが、41年「鷲の王峠」42年「おさの音」44年「峰の雪」等で戦争協力に一歩踏み出す。戦後、1946年2月より、「戯曲研究会」を主催。月2回自宅にてゼミナール形式の研究会を始める。ここから秋元松代、石崎一正、柳川昌一、高橋昇之助らが輩出された。48年ラジオドラマ「女体」発表。「廃墟」「猿の図」「その人を知らず」「胎内」等で自らの戦中姿勢に対する凄絶な体当たりを展開。その自我と戦後社会に対する執拗な観念的かつリアリスティックな追求は1952年の「冒した者」に結実する。1951年、三好50歳の時、大映演劇部の研究会「一歩会」の顧問となり、後に戯曲座と呼称し、主催する。若い俳優育成に純粋に尽力を尽くした。同年9月、「炎の人」を劇団民芸初演、10万人の観客を動員する。第三回読売文学賞受賞。1955年、12月29日、咯血。肺結核を罹患。戯曲「鍾乳洞」「一夜」発表。コラム「悪人を求む」を遺稿として、1958年12月16日永眠。

深寅 芥 (みとら・あくた)

1976年7月24日生まれ。演出家・俳優。日本大学芸術学部演劇学科演技コース卒業。2004年7月より劇団「空間ゼリー」の演出・俳優を担当。同劇団では、人間の「行動と目的」を軸とした海外思考のメソッド(マイズナーメソッドミツヴァエクササイズ等)をベースに、日本の古典芸能から学んだ表現技法と身体技法を融合させた演出・演技を目指す。主に、リアリズムとドラスティックの狭間の中から「劇的な日常」を具現化する事を心がけている。

貝山武久 (かいやま・たけひさ)

メーブルリーフ・シアター代表。日本演出者協会評議員。早大文学部卒業後、劇団文化座に入座、同座にて『越後誓女(こぜ)日記』『日本の教育1970』『三婆』など多数作品を演出。1982年文化庁在外研修員として一年間カナダに滞在、帰国後メーブル・リーフシアターを翻訳家の吉原豊司とともに創設、以後カナダ演劇作品を多数上演している。代表作に『血のつながり』『びっくり箱』『やとわれ仕事』など。

<お申込み方法> ※あらかじめご予約ください。
 ◎申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたは 郵送にてお申し込み下さい。
 ◎メールでご予約の際は、件名を「チケット予約」とし、本文に「お名前・枚数・ご連絡先」をご明記の上お申し込みください。予約完了メールが届いた時点で予約完了となります。
<お申込み・お問合せ先>
 日本演出者協会 担当:佐々木ノ大竹
 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎3F
 TEL: 03-5909-3074 FAX: 03-5909-3075 携帯: 090-1398-3551 (大竹)
 専用メールアドレス: kindaigikyoku@yahoo.co.jp
 ※受付開始、開場は開演の40分前です。
 ※受付は開演の10分前までにお済ませください。10分前を過ぎますとご予約を頂いてもお席をご用意できない場合があります。



「劇」小劇場
 小田急線・井の頭線
 「下北沢」徒歩3分
 東京都世田谷区北沢2-6-6
 TEL 03(3466)0020

参加申込み票

氏名	フリガナ	性別	男・女	電話:	
				FAX:	
ご住所	〒				
チケット枚数	3/13(火)	枚	3/13(火)	枚	3/14(水)
	リーディング		シンポジウム	リーディング	シンポジウム
				枚	枚